リレーコラム

夢と目標に向かって

林　靖男

ベランダから見える油山。左右に長い裾を引いたその姿は美しい。そこで活動している「森を育てる会」を知り、2004 年 12 月に入会したが、その動機の下敷きとして、若い時から続けている山登り、自然に親しむ気持ちみたいなものが有ったような気がする。そこで、森会の活動とはかけ離れているが、小生の趣味ー山登りについて記してみたいと思います。

――目の前には 360 度の素晴らしい眺望が広がっていた。はるか遠くに続く峰々、見上げれば抜けるような紺碧の空。滴る汗、苦しい息遣いに耐えて登ってきたご褒美だろう。ここは磐梯山(福島県)1818.6m の頂上。時は 1962 年８月、１８歳の私が初めて登った山だ。

以来、瞬く間にのめり込んで行った。春夏秋冬、単独峰から縦走へ、無積雪期から積雪厳冬期へ。土日祭は元より、年末年始、５月８月の連休等は全て山行に費やした。

初めての厳冬期テント生活は、南アルプス・塩見岳への山行だった。腰までの深雪をラッセルし、登り着いた三伏峠での幕営。寝袋に入っていても寒さは身に染みた。夜中に“寒い！”と言ったら先輩から“うるせー！”と叱られたことは今でも忘れない。

厳冬期の富士山では九死に一生を得た経験をした。仲間３人とアンザイレン(ロープで結び合う事)して急登を登っていた時、強風に煽られ３人同時に滑落した。雪と氷で落ちるスピードが速く自分達では止められなかったが、偶然にも岩の突起に引っ掛かり事無きを得た。その後も幾度か三途の川を渡りかけたが、“まだ早い！”と船頭が乗せてくれなかった。

この頃海外の山とくに「世界７大陸最高峰」に憧れた。しかし、資金、知識、実力いずれも無く夢のまた夢だった。写真集や本を読んで満足するほか無かった。

山屋のバイブル「日本百名山」(深田久弥著)の全山踏破を目標としたのもこの頃だった。

時が経ち５０～５５歳位のメンバー８人で、若い頃の夢を実現しよう・・という話が持ち上がり、1993 年ヨーロッパ・モンブラン 4807m、マッターホルン 4478m 登頂、1995 年ヒマラヤ・アイランドピーク 6189m 登頂、1996 年南米・アコンカグア 6960m 未登、2000 年アフリカ・キリマンジャロ 5895m 登頂、2002 年北米・マッキンリー6194m、マウントレーニア 4392m いずれも未登、2005 年オーストラリア・コシウスコ 2230m 登頂と、６大陸に遠征した。南極大陸が残っているが長年持ち続けた夢がほぼ実現した。

2010 年には、飯豊山(山形県)に登り「日本百名山」全山登頂が完成した。

此処までの期間で山に対する心構えが少しづつ変化していたような気がする。

若い頃はがむしゃらに登り、山に、自然に挑むような所が有った。中年になりその思い上がりに気づき、山の機嫌が悪い時は無理をしないであっさりと引き返す。又従来のピークハンターから、周りの風景、花、生き物等を楽しみながら登るようになった。

更に年齢を重ねるにつれ体力は落ちてきたが、山登りは止めたくないので、分相応の山を選び、延べ登頂座数 1,000 座(現在は 727 座)を目標に、可能な限り続けて行きたいと考えている今日この頃である。

次回は国広氏にお願いします。